

第4表

種類別付着芽数

種 類	10月20日 検 鏡				10月31日 検 鏡				増芽率
	1 列	2 列	4 列	計	1 列	2 列	4 列	計	
松 川 浦	1	1	0	2	1	4	5	10	5.0
万 石 浦	0	0	2	2	36	0	21	57	28.5
千 葉	0	3	5	8	64	3	3	70	8.75
三 重	0	2	9	11	228	234	18	480	43.6
鳴 門	0	0	7	7	10	6	8	24	3.4
大 分	1	2	1	4	9	3	0	12	3.0
塩 津	1	1	1	3	3	2	9	14	4.6
牟 呂	0	1	5	6	11	7	6	23	3.8
天 然	0	1	2	3	4	1	3	8	2.7
平均附着芽数	0.3	1.2	3.5	5.1	40.7	28.8	8.1	77.6	15.2

張込月日：10月6日より4日間全浮動にて採苗しその後仮殖した。

張込場所：豊橋市牟呂地先

方 法：木わく(1m×3m)にクレモナ網5枚を巻きつけ、その間へ糸状体貝がらを各30枚入れ全浮動にて4日間不干出採苗をした。なお、この試験の対照には同日張込まれた網を用いた。

結 果：張込後11日目の10月20日採集検鏡時においては、最も多く付着していたのは三重種で、3cm間に11個体で、松川浦、万石浦種は最も少なく2個体しか着生しなかった。

2回目10月31日の調べた結果では、増芽率よりみると、平均は15.2倍で、最も芽の多く増えたのは千葉、三重、万石浦種で、28倍から87倍に芽が増えている。

Ⅲ. 水産業改良普及事業

1. 事業の現況と生産

本県の改良普及事業は主として増殖業を中心に行なっているが、中でもその大部分を占めるのり養殖業は水平ひびに転換以来急速に進展をとげその後人工採苗の研究等により一層拍車をかけてきた、生産の推移は次のとおり

年次	組合数	戸数	人員	面積	網ひび		竹浮ひび	そだ	生 産	
					さく数	使用枚数			枚数	金額
		戸	人	ha	千棚	千枚	千棚	千株	百万枚	百万円
26	50	8,191	24,820	990	2	2	1	2,470	124	
27	55	8,543	27,167	1,670	12	12	6	2,795	176	
28	58	8,937	30,477	1,670	90	90	2	2,213	108	
29	61	9,532	32,000	2,080	150	180	1.4	2,050	241	
30	65	9,235	32,500	2,330	160	240	2.2	1,785	300	
31	65	9,500	33,000	2,470	200	300	2.2	1,500	380	
32	65	10,815	33,113	3,360	314	471	0.8	1,631	210	1,250
33	75	11,000	33,500	3,640	350	700	0.7	900	450	2,250
34	80	11,053	36,394	4,780	390	780	—	654	542	3,560
35	85	11,100	36,400	5,000	400	880	—	400	861	4,400

次に本年度の県下の生産概況をみると次のとおりである。

10月上旬一斉に張込んだ天然、人工種付とも下旬には肉眼で認められるようになったが天然種付に比べ人工種付は非常に成績よく移殖後も小芽痛み等無く順調に経過した。11月中は例年みられるような暖冬による小芽いたみも無く二次芽も濃密に発芽した。一方初摘みは11月15日から行なわれ12月に入り生産の盛期を迎えた。しかし濃密に発芽した二次芽網は高張りし過ぎたためかその後の伸長悪くついに生産に至らなかつたものが相当あつた。

その後順調に生産を揚げていつたが12月下旬から正月にかけて強風のため西向の漁場では網の破損がひどく特に知多郡西部では大半流失した漁協もあつた。これ等の漁協では早急に種網の補給を行なつた結果ほぼ生産は復元できた。1月からは冷え込みがひどかつたためか、各漁協ともり芽は健全に発育したが伸長悪く前記の二次芽網で生産不可能なものが少なくなかつた。春は比較的遅くまで生産をあげたため収量としては別表のような生産をあげ得たが、価格は前年に比べやや落ちた。それでも収量金額共創始以来最高を示している。

2. 事業の実施経過

(1) 漁場観測速報

国の指定点と、のり養殖期間中のみ定点とを次のとおり定め実施した。

種別	観測定点所在地	協力研究グループ名	期 間	実 施 方 法
指 定 定 点	豊橋市大崎町	大崎のり研究会	35年 4月 から 36年3月 まで 12ヶ月間	観測記録は毎週1回水試に報告させこれをとりまとめ解析して各漁村に通報する。通報の方法は文書の他ラジオ、新聞、部落放送等を通じて行なつた。
	幡豆郡吉良町吉田	吉田のり研究会		
	知多郡師崎町大井	大井水産改良クラブ		
	常滑市常滑町	常滑漁業研究会		
県 単	名 古 屋 市 知多郡知多町		10月から 3月まで	

ア 時 間 原則として10時とする

イ 項 目 気温、水温、最高最低、潮候、波浪、にごり、天候、風向力、比重

ハ、観測記録の利用

研究グループから水試への報告		水試から漁村への通報	
方 法	回 数 (週間)	方 法	回 数 (月間)
電話、通信	9月上～10月下 毎 日	新聞、ラジオ 電話、水試からの 漁況通報	10月から3月までは必ず 毎週1回 4月～9月までは 2～3回
	11月 ～ 3月 毎 週		
	4月 ～ 9月 毎 旬		

(2) 増殖技術改良試験

新漁場の開発と漁場優良化を図るため沖出し養殖と施肥の試験を次のとおり行なつた。

ア 試験項目および場所

イ) のり浮し養殖

α 渥美郡渥美町

- b 幡豆郡幡豆町
- c 半田市乙川町（尾張分場の項）

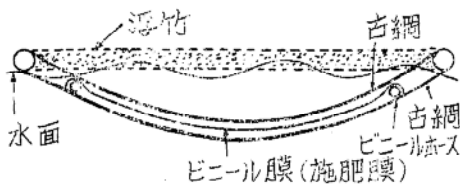
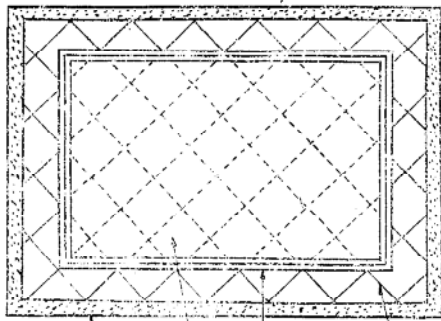
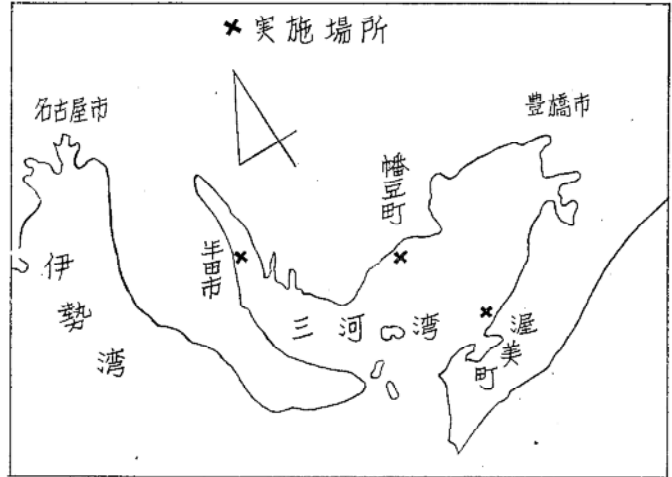
(4) のり施肥試験
幡豆郡一色町

イ 実施経過

a 幡豆郡幡豆町東幡豆漁場
ここでは低位生産性漁場における人工採苗試験および浮き流し養成試験を行なった。

(a) 人工採苗（施肥膜、全浮動採苗）

水深底質の関係から従来採苗方法が行えない水域での採苗方法の確立を目標として昭和34年度業務報告に予記しておいた施肥膜利用の全浮動人工採苗を試みみた。



採苗年月日

昭和35年10月8日～10月12日

採苗網枚数

クレモナ1.2m×1.8m10枚および1.2m×1.8m1枚

方法

2.2m×1.5mの木わくにのり古網をピンと張り、周囲にビニールホース(10mm)を張りつけハト目でとめてあるビニール膜をその上に乗せ、さらにもう1枚古網を重ねてとじたものを作り、その中に糸状体貝がらを細片にしたものを投入、その上に耳をたくつて1.8m×1.2m位に縮尺したのり網を乗せ水表面全浮動させた。

結果及び考察

10月9日、第1回の検鏡ではのり孢子発芽体が100×一視野に10～30個程見られた。然し10月12日検鏡時には発芽体見られず、またけい藻に覆われたため確認できなかつた。

そこでさらに1週間おいて10月19日に改ためて検鏡したが発芽体はほとんど見られず孢子の確認も不可能であつたため、成績不良として1.8m×1.2m網2枚(このうち1枚は無採苗の対称網)を残して陸揚げ整理した。しかし12月1日頃になつてこの採苗網上にほとんど黄色の長さ2cmばかりのちぢれたのり葉体が無数に出現した、もちろん対称網にはのり芽が見られなかつたことから、10月8日採苗の結果であることは間違いなく、これは何らかの原因でしばらくの間細胞分裂が行なわれずさらに発芽後の成長も非常に悪かつたものであろう。この網を早速良漁場に移植したが以後の成長も不良であつた。

(b) 浮動養成

時期

昭和35年11月10日～昭和36年1月15日

方法

昨年知多大井で行なつた方法(昭和34年度業務報告)を本年も試みた。

使用網

秋芽は予定していた野外人工採苗網が全て失敗であつたため牟呂天然採苗網を用いた。後半は常滑二次芽網を使用した。

経過および考察

11月10日張り込んだ牟呂網は芽付の悪い網であつたため、この方法の展示を目標とし、普及効果を期待しただけであつた。しかし11月10日頃には2~3cm程度ののり葉体が11月20日頃には30~50cmに伸長したため、地元業者は浮流し養殖の将来に明るい見通しを持つようになった。この結果早速試みる者も現れたが、以後は海況が悪変して期待した程の効果はなかつた。二次芽網は11月10日に採苗したもので、11月25日常滑より移殖直ちに流した。この時ののり葉体の大きさは大体5mmであつたが、以後の成長には異状は認められなかつた。12月中旬頃から極端な肥料不足のためたい色甚だしく、伸長がほとんどみられぬようになったので一部を残し、大部分の網を江比間に移した。

b 渥美郡渥美町江比間漁場

この地区は本県の有望なりのり漁場の未開発地域と考えられ、特にうき流し漁場として今後大いに発展するものと思われる。そこで未利用漁場の開発を目的としてのり浮き流し養殖を展示試験したが、地元業者が直ちにこれを取り入れて、第1年目に150枚の網を浮かす等普及効果は大であつた。特にこの地区は1月以降は貧栄養漁場となりのりの品質が著しく落ちるようになるのであるが、河口等の局所的な富栄養水域に行なうことによつて粗悪なのを優良なのにすることができ、相当の収入増が見られたようである。この地区は年内は比較的富栄養の水域であり良質ののりがとれるので、この期間に重点を置いて行なうのが効果的である。来年度はこの地区において相当大規模に行なわれるものと考えられる。

時 期

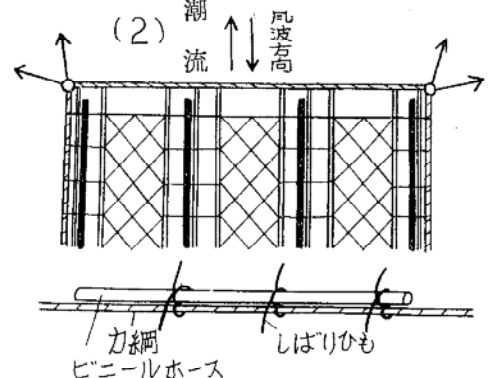
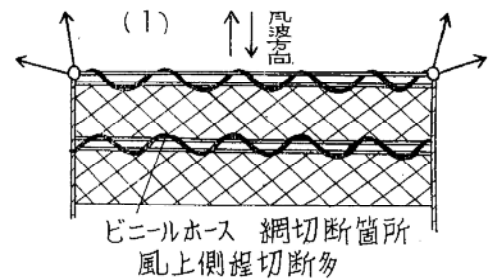
昭和35年12月15日~36年2月10日

方 法

東幡豆漁場と同じ

経過および考察

12月15日、常滑にて二次芽採苗後東幡豆漁場に抑制してあつた網を流した。その後のり芽の伸長は良好で12月20日には約15~25cmに伸長していた。しかし年末から新年にかけて強西風が連日吹き、このため、施設は破壊し、網は流失した。この原因はのり支柱等流物が浮来し施設を破壊したことおよびのりの成長量が多く抵抗が強かつたためと考えられるが、最も大きな原因はビニールホースによる網の接続法、特に風波方向に対して網を直角に張つたことであつたと思われる。それで1月9日に早速予備の網に切替えたが、その時には第2図のようにビニールホースの使用法および網の展開方向を改良した。1月以降はこの地区は貧栄養となり、のりはたい色し伸長は見られなくなつて結局この予備網から生産をあげることはできなかつた。今後この地区で浮き流しを行なうためには時期の選定、施設の耐波性に問題点があると思われるがさらに流れ藻対策や施肥の問題を考究解決することが必要であろう。



(1) のり施肥試験

のり施肥は従来いろいろな肥料をいろいろな方法例えば容器へ充てんしてつり下げ、噴霧等によつて個々に行なわれてきたが判然とした効果が得られなかつたので、本年は漁場全域の栄養分を高めるため散粉機によつて大々的に行なつた。

- (a) と き 昭和35年12月下旬、1月下旬
- (b) と ころ 幡豆郡一色町地先
- (c) 実施概要

粉末肥料を動力散粉機(3HP)によつて船から散粉した。肥料は約200kgで1,000さく、8万㎡を対象として行なつた。

(d) 結 果

施肥区のもの価格は対照区にくらべ約10%高となり収益に対する肥料代、諸経費は30%を占めた。来年度はヘリコプターによる空中散粉によりさらに大々的に行なう予定である。

(3) 巡回指導事業

ア 増殖専門技術員指導実績

月	回数	場 所	参集人員	所要時間	内 容
4	15	牟呂漁協ほか	延 名 3,345	90	のり研究集会他
5	6	衣崎 "	1,353	36	のり糸状体診断他
6	21	一色 "	972	84	"
7	21	吉田 "	776	127	"
8	18	渥美町 "	976	114	のり種付講習会他
9	31	前芝 "	2,497	162	のり人工採苗講習会他
10	27	渡津 "	4,599	108	移植後の管理その他
11	22	大崎 "	915	100	二次芽どり他
12	21	豊橋水産会館ほか	580	93	東三研究集会他
1	7	名古屋市ほか	193	36	研究部会他
2	15	老津漁協ほか	420	55	のり漁場診断他
3	7	衣崎 "	199	33	糸状体種付、わかめ人工採苗他
計	211		16,825	1,038	

イ 漁業機械関係指導実績

月	回数	指 導 地 区	件数	内 容
4	6	豊橋市、幡豆一色町外	15	小型ディーゼル取扱診断
5	3	南知多町	10	魚探機取扱診断
6	3	幡豆郡、一色、吉良、幡豆町	2	"
7	6	名古屋市、宝飯郡、御津町外	5	小型ディーゼル機関取扱診断
8	6	幡豆郡幡豆町	7	"
8	6	南知多町、豊橋市外	10	小型船舶操縦士講習会(東幡豆)
9	6	渥美郡渥美町、豊橋市外	10	小型ディーゼル機関診断
10	11	幡豆郡幡豆町外	12	小型ディーゼル機関取扱診断
11	17	幡豆郡一色町外	15	"
11	17	幡豆郡一色町外	10	魚探機取扱診断
12	9	渥美郡渥美町外	9	小型ディーゼル取扱診断
1	8	豊橋市外	12	小型ディーゼル取扱診断
2	3	南知多町	11	"
3	3	渥美郡渥美町、知多郡横須賀町	5	"
3	7	渥美郡渥美町、知多郡横須賀町	8	"
計	85		131	

(4) 種苗の確保

のり移殖組合を指導して県内外の種苗移殖を行なつてきた結果年々その成果はあがりつつあるが一方人工採苗の進展により前年度を山として減少の一途をたどりつつある。

その経過は次表の通り

県内外からの種網の導入

(単位 千枚)

年度	県 内 種 場				県 外 種 場					合 計
	牟 呂	福 江	田原湾	計	万石浦	松川浦	千葉県	三重、愛媛	計	
30				92,668	8,600	5,000	3,000	—	16,600	109,268
31	48,463	34,410	11,084	93,957	18,400	19,150	3,181	7,800	48,531	142,488
32	46,140	30,550	7,739	84,429	26,504	22,851	21,919	—	71,274	155,703
33	48,379	36,995	8,186	93,560	9,570	12,042	10,160	—	31,772	125,332
34	40,712	27,764	8,962	77,438	7,870	16,139	12,805	—	36,814	114,252
35	46,615	40,920	8,878	96,413	3,497	10,998	15,207	—	29,702	126,115
36	38,352	22,265	8,399	69,016	1,250	7,572	4,765	—	13,587	82,603

糸状体培養と人工採苗

年度	糸状体培養				人工採苗網	
	水試	共同施設	ト口箱	計	貝殻使用数	種付網
	千枚	千枚	千枚	千枚	枚	千枚
32	50	50	—	100	5~10	10
33	120	250	500	870	10~15	58
34	220	870	4,000	5,090	10~15	250
35	220	900	7,500	8,620	15~20	
36	220	1,100	9,000	10,320	15~20	400

のり建込期前後の各地先の気温、水温、比重

地名 月日	三谷地先16か年平均			三谷地先			名古屋港			新舞子地先		
	気温	水温	比重	気温	水温	比重	気温	水温	比重	気温	水温	比重
35年15				26.4	26.5	14.5	29.2	26.8	19.3	28.2	27.4	15.0
9月16				27.2	27.2	10.1	26.2	26.4	16.0	27.7	28.0	14.7
17				28.6	28.0	14.2	28.2	27.4	17.3	30.8	29.0	14.0
18				28.8	27.2	10.3	25.5	27.4	18.0	27.6	28.1	16.3
19				28.7	27.8	18.8	30.4	27.6	17.2	29.1	28.6	14.1
20				27.5	27.3	23.3	23.8	27.6	19.1	26.3	27.0	15.2
平均	26.1	25.9	19.1	27.9	27.3	15.2	27.2	27.2	17.8	28.3	28.0	14.9
21				26.5	27.4	20.4	25.8	26.8	18.4	27.8	28.4	13.5
22				25.6	26.6	15.0	27.6	27.2	18.6	25.9	26.4	15.5
23							27.2	27.2	18.2	27.3	27.7	15.4
24				26.9	26.8	21.9	27.0	27.4	19.4	25.8	26.3	17.0
25				27.0	26.9	23.1	25.2	27.0	19.6	25.6	26.1	17.7
26				25.7	26.5	24.2	23.0	26.2	21.4	21.3	24.3	21.6
27				24.0	25.4	21.1	20.0	25.8	22.1	22.9	24.6	19.6
28				21.9	24.3	21.1	21.6	25.6	22.8	22.7	23.8	19.4
29				21.6	24.0	21.5	19.2	25.2	22.9	22.2	24.4	20.9
30				21.0	23.7	20.8	21.1	25.0	22.7	23.3	24.2	19.5
平均	23.9	24.0	19.9	24.5	25.8	21.0	23.8	26.3	20.6	24.5	25.6	18.0
10月1				22.3	23.9	19.4	21.0	25.2	22.5	23.2	24.1	19.1
2							23.1	25.5	23.1			
3				22.9	23.9	19.0	20.0	25.0	22.7	22.4	25.7	23.5
4				23.5	24.0	22.1	20.8	25.2	22.9	22.7	24.2	22.7
5				22.7	23.4	19.6	22.0	24.8	23.0	22.6	24.8	22.2
6				22.9	22.9	22.1	19.8	24.8	22.9	22.0	23.4	21.4
7				22.4	22.5	21.6	18.8	24.4	23.2	19.8	21.6	21.4
8				22.5	22.6	22.8	22.8	24.2	22.8	22.4	22.5	21.1
9				22.6	22.7	21.7	22.4	24.2	23.0	21.0	22.1	20.7
10				22.0	22.4	19.9	20.8	24.2	21.9	20.6	21.6	15.3
平均	21.9	22.2	18.5	22.6	23.1	20.9	21.2	24.8	22.8	21.8	23.3	20.8
11				21.6	21.9	16.2	22.4	24.6	22.4	22.4	23.5	19.4
12				20.9	21.8	10.8	22.0	24.6	22.4	22.1	23.3	20.8
13				21.9	22.2	22.7	22.0	24.8	22.9	24.6	24.4	21.1
14				21.7	22.2	21.6	20.0	24.2	23.1	23.2	23.7	20.4
15				22.1	22.1	20.5	21.0	24.2	22.8	24.8	24.3	21.1
平均	21.0	21.1	19.1	21.6	22.0	20.3	21.5	24.5	22.7	23.4	23.8	20.6

各地先の平均気温、水温、比重

月	旬	三谷 16ヶ年間			三谷地先			名古屋港			新舞子			
		気温	水温	比重	気温	水温	比重	気温	水温	比重	気温	水温	比重	
35年	4	上	13.8	13.0	21.0	12.7	11.6	23.1	12.1	12.8	23.1	14.6	12.7	21.7
		中	16.1	14.9	19.8	15.8	13.6	21.7	15.6	14.4	22.1	14.8	13.5	20.7
		下	16.6	16.3	19.3	17.8	15.8	27.7	18.7	16.5	20.5	18.3	17.2	18.3
5	上	中	19.1	18.5	19.4	19.3	18.2	21.8	18.7	17.6	20.0	18.8	18.1	18.1
		下	19.9	19.8	19.5	20.2	19.2	17.7	20.2	18.4	20.0	20.1	19.2	16.8
		下	21.6	21.1	20.0	22.0	21.1	17.4	22.0	20.7	18.7	22.2	21.2	18.2
6	上	中	22.2	22.2	19.3	21.9	20.9	22.4	22.6	21.1	20.5	22.7	21.9	19.1
		下	23.3	23.1	19.2	23.2	22.2	21.7	24.0	22.8	20.2	22.9	22.2	19.2
		下	24.6	24.2	17.9	25.1	24.0	11.6	26.0	24.0	16.8	25.4	24.5	13.2
7	上	中	26.1	25.9	18.5	27.2	26.4	17.5	27.7	25.2	16.4	27.4	26.8	15.8
		下	27.1	27.8	18.4	29.8	27.5	21.3	29.3	26.0	19.7	28.9	27.4	19.2
		下	27.3	28.4	12.2	29.4	29.8	19.2	30.3	29.1	17.9	29.6	28.9	20.2
8	上	中	29.9	29.7	20.7	31.0	31.1	22.2	31.7	30.3	18.9	31.4	30.7	21.2
		下	29.3	29.3	19.9	27.7	28.2	15.9	28.3	27.8	8.8	28.9	27.8	6.8
		下	28.3	27.8	10.7	29.0	28.4	20.8	29.6	29.0	12.8	28.9	28.5	14.0
9	上	中	27.5	27.3	20.5	27.3	28.5	19.0	27.1	27.7	17.2	26.8	27.9	14.5
		下	26.5	26.2	19.0	27.5	27.0	15.4	25.7	26.8	18.9	27.1	27.1	16.4
		下	23.9	24.0	19.9	24.1	25.8	21.0	23.8	26.3	20.6	24.5	25.6	18.0
10	上	中	21.9	22.2	18.5	22.6	23.1	20.9	21.2	24.8	22.8	21.8	23.3	20.8
		下	20.5	20.6	19.4	21.3	22.0	21.5	20.4	24.3	22.9	22.2	23.0	20.7
		下	19.2	18.8	19.8	18.7	20.0	21.9	17.3	22.9	23.2	20.6	20.4	22.1
11	上	中	17.5	17.6	20.5	16.5	17.7	21.3	16.2	20.9	23.0	17.4	18.4	21.8
		下	14.8	14.7	21.7	15.2	16.6	22.7	14.0	20.2	23.1	16.7	17.3	21.8
		下	13.6	13.6	21.0	15.0	15.4	20.3	12.6	18.5	22.0	15.2	16.8	19.9
12	上	中	10.8	10.8	21.7	9.6	11.6	21.3	8.4	17.0	23.5	12.1	14.1	21.4
		下	9.1	9.2	22.1	10.6	10.8	20.9	8.5	15.9	23.5	12.3	13.1	21.9
		下	7.9	8.2	22.3	7.5	8.6	22.2	5.3	13.8	23.0	9.3	11.6	22.4
36年	1	上	6.3	7.5	22.2	5.8	6.0	21.4	3.4	11.1	22.4	6.8	8.7	21.9
		中	7.0	6.5	22.8	4.9	5.5	22.6	2.4	11.2	23.0	7.5	8.8	22.0
		下	6.5	6.0	22.7	5.0	4.7	23.0	4.2	10.5	23.2	8.2	8.6	23.0
2	上	中	6.4	5.8	22.9	5.5	5.0	22.6	4.5	10.1	22.3	7.0	7.4	21.9
		下	6.6	6.4	22.7	4.6	5.2	22.8	3.6	9.4	22.8	5.7	7.6	22.5
		下	8.1	7.1	22.6	6.8	5.8	22.4	5.8	9.5	23.7	9.2	8.8	23.1
3	上	中	8.9	8.1	22.7	9.4	8.1	22.0	8.6	10.4	23.3	11.0	9.6	22.2
		下	10.2	9.1	22.3	10.0	9.1	20.4	9.9	11.0	23.7	12.4	11.2	22.8
		下	11.7	10.5	21.9	12.2	11.2	23.4	11.3	12.1	23.2	13.6	12.6	22.5

IV 漁村青壮年実践活動促進事業

1. 事業の目的

現在本県には水産業関係の漁民集団が約85あり各集団はそれぞれの目的をもつて自主的に活動しているがさらにこれ等の方向を体系づけその活動を一層促進助長し、構造改善のにない手としてのグループ員を育成することを目的に次の事業を行なった。

2. 事業の内容

(1) 青壮年団体協議会開催事業

開催地	期日及び 期間	参加 人員	対象グループ名	主 要 議 題	助 言 者	
蒲 郡 市	35.8.2 1日間	54	三河湾関係グループ	55	本年度改良普及事業計画説明研究会、連合体（ブロックを含む）の組織と活動について	東京大学、県、水試、市町村技術指導員
半 田 市	35.8.12 1日間	41	尾張部関係グループ	45	〃	〃
名古屋市	35.9.19 1日間	48	県下のり関係グループ	45	本年度のり関係事業計画樹立のり人工採苗についての座談会	〃
〃	36.1.10 1日間	155	県下全域グループ	90	全部門についての研究成果の発表会	東大、県、水試、漁連
〃	36.1.24 1日間	45	県下のり関係グループ	50	のり関係事業成果の中間報告会	東大、水試、市町村
〃	36.3.24 1日間	47	〃	45	のり関係事業成果の報告、検討会	東大、県、水試
計	6日間	390				

(2) 水産技術交流事業

項 目	視察先地名		計
	宮城県気仙沼市、岩手県陸前高田市	茨城県大洗町	
導入技術の概略	のり沖出養殖	タコたる流しの漁法	
視察団の人員、構成	県指導職員 1名 研究グループ員 6名	県指導職員 1名 研究グループ員 4名	12名
期日、日程	35年11月24日から 6日間	35年12月12日から 4日間	10日間
実施方法の概略	実習ならびに現地研究グループとの座談会	乗船実習および現地研究グループとの座談会	
実施後の普及方法概略	報告書、研究集会において発表	報告書、研究集会において発表	

(3) 実践活動器材貸与事業

ア 貸与器材一覧

器 材 名	規 格 ま た は 型 式	数 量	管 理 場 所
てん倒寒暖計	防圧 1/6	2	水試本場 2、
最高最低温度計	示差、海水用	16	" 11、分場 5
比 重 計	赤沼式、特A号	16	" 10、" 6
てん倒採水器	ナンゼン型	4	" 3、分場 1
中層採水器	北原式B号(T.S)	7	" 7
流 速 計	T.S積算	1	" 1
魚郡探知機	グラフ9型トランジスタ式 電源 8V、3A、B型、40尋	1	" 1
水中照度計	T.S簡易コード付	2	" 1
照 度 計	東芝7号型	15	" 11、分場 4
顕 微 鏡	千代田光学製けい帯用Q型	1	" 1
スライド投映機	マスター冷却式 300W	1	尾張分場 1
拡 声 機	トランジスタ CB601型	1	水試本場 1、分場 1
テープレコーダー	ソニー 288、101、362型	3	" 2 " 1
撮 映 機	キヤノンズーム 8	1	" 1
映 写 機	エルモ F-80	1	" 1

イ 貸与実績(ア)水試本場

(ア) 水試本場

器 材 名	対象グループ名	延日数	使用目的	使用 方法
てん倒寒暖計	東幡豆漁業研究会他 19 グループ	168	漁場調査他	水試他の指導による
最高最低寒暖計	塩津のり研究会ほか 15 "	142	のり糸状体培養場調査ほか	"
比 重 計	大塚 " 21 "	181	"	"
てん倒採水器	東幡豆漁業研究会ほか 9 "	97	漁場調査ほか	"
中層採水器	西浦 " 1 "	20	"	"
流 速 計	形原 " "	10	使用法練習	"
魚郡探知器	三谷 " 1 "	20	漁場調査ほか	"
水中照度計	吉田のり研究会ほか 15 "	106	のり糸状体培養場調査ほか	"
照 度 計	前芝 " 17 "	138	"	"
顕 微 鏡	塩津 " 12 "	103	"	"
拡 声 機	牟呂 " 5 "	60	講習会用	"
テープレコーダー	〓 13 "	122	"	"
撮 映 機	" 8 "	73	活動記録	"
映 写 機	衣崎 " 11 "	109	講習会用	"
計	延 161 "	1349		

(4) 尾張分場

器材名	対象グループ名	延日数	使用目的	使用方法	
最高最低寒暖計	鬼崎のり研究会ほか	5	グループ	60のり糸状体培養場環境調査他	水試他の指導による
比重計	下之一色	9	"	100のり糸状体培養水調査他	"
てん倒採水器	師崎浦漁業	4	"	50漁場観測	"
照度計	新知のり	5	"	60のり糸状体環境調査他	"
スライド投映機	平井	6	"	70講習会他	"
拡声機	豊浜漁業	3	"	40	"
テープレコーダー	平井のり	6	"	70	"
計	延	45	"	延450	

(4) 技術修練会開催事業

ア 開催概要

修練会の名称	開催月日	開催地(会場)	参加グループ	人員	修練内容(課目)	担当講師または助講
漁船運航技術修練会	35.8.3~8.9 7日間	幡豆郡幡豆町	幡豆町関係グループ	53	航海修練会(A) 20トン未満	名古屋船舶職員 養成協会
	35.11.12~11.18 7日間	" 一色町	一色町関係グループ	45	" "	"
	35.7.22~8.4 14日間	幡豆郡幡豆町	幡豆町関係グループ	42	機関修練会(A) 40馬力以上	"
	36.2.20~3.5 14日間	知多郡豊浜町	豊浜町関係グループ	55	" "	"
小計				195		
漁業技術修練会	35.9.6~9.9 4日間	豊橋市東三事務所	三河湾関係44グループ	95	気象、漁業権、化学 繊維、水産動植物、 のり人工採苗、のり 沖出養殖、顕微鏡な らびに観測器具実習	広島大学 藤山 虎也 (1回のみ) 東京大学 中村 中六 " 齋藤雄之助 県ならびに水試 担当者
	36.3.28~3.30 3日間	名古屋市水産会館	尾張関係 38グループ	45		
小計				140		
計				335		

イ 漁業技術修練会の内容

(ア) 三河地区

- a とき 昭和35年9月6日10時から9月9日17時まで
- b ところ 県東三河事務所大ホール
- c 対象 東三河、西三河研究会員 90名
関係機関指導職員 5名
- d 内容

漁場環境用語の解説 講師 水試
顕微鏡観測調査器具実習 " "

漁家経営の合理化について	講 師	農業技術課
気象について	〃	気象台
化学繊維について	〃	織 試
三河湾の魚貝類について	〃	東 大
沖出し養殖について	〃	水 試
漁業権について	〃	水産課
野外人工採苗について	〃	水 試
今年の天然種付について	〃	〃
有用海藻類の養殖	〃	東京大学
室内人工採苗について	〃	広島大学

e 所 感 野外人工採苗はある程度成果を収めているが室内人工採苗については全然といつて良い程成果をあげていないそこで広島大学から藤山先生を招へいし連続式と回転式の室内人工採苗について聴講あるいは質疑応答を行なつた。

この結果時期をひかえているせいもあつて皆活ぱつに質疑応答を行なつた。

(4) 尾張地区

- a と き 昭和36年3月28日10時から30日17時まで
- b と ころ 愛知県水産会館
- c 対 象 全県下研究グループ員 40名
関係機関指導職員 5名
- d 内 容

水産動物増殖論	講 師	東京大学
水産植物増殖論	〃	〃
化学繊維について	〃	織 試
漁場環境用語の解説	〃	水 試
水質汚濁について	〃	〃
顕微鏡取扱と糸状体	〃	〃
のり浮動養殖法	〃	〃
漁場施肥の考え方	〃	〃
漁家経営の合理化	〃	農業技術課

(5) 研究発表大会の開催

のり研究発表大会と併行して水産業全部門をもうらして発表するもので即全国大会の予選ともいえるもので次のとおり行なつた。

- ア と き 昭和36年1月10日10時から17時まで
- イ と ころ 愛知県水産会館3階大ホール
- ウ 出席者 150余名
- エ 発表件数 15件、漁ろう 3件、養法 4件、加工 1件、生活改善 4件、経営 3件
- オ 入賞者

(ア) 最優秀賞 愛知県知事賞
漁村の生活改善

下佐脇漁協生活改善グループ長木敏子

(イ) 優秀賞 愛知県漁業協同組合連合会長賞

乾燥機併用ののり養殖

味沢のり研究会 藤田 忠

- (ウ) 努力賞 愛知県漁業協同組合連合会長賞
 漁家経営よりみた魚礁の経済的効果
 師崎漁業研究会 吉川武一

入賞者のうち1位は全国大会において発表し水産庁長官賞の栄に浴した。

カ 所感

本発表大会には本年から婦人グループが参加したため大会に一層の光彩を放ち意義ある発表大会であつた、特に婦人が1位に入賞したため婦人活動の将来には大きな期待がかけられている。

(6) 研究グループの活動状況

ア 研究グループの現状

種 別	数	員数	平均 年令	年間平均活動資金	顕微鏡	その他の器具
漁業協同組合	88	11,100				
青壮年集団	68	906	32	5~10万円 最高45万円	45	108
婦人集団	9	2,782		3万円		
連 合 体	8	3,688		20万円最高40万円		

イ 諸事項の連絡と普及徹底

水試その他試験機関からの指示事項、講演会、座談会、研究会および先進地技術交流等によつて得られた新技術を一般組合員に普及徹底させるよう、また個々の研究はパンフレットの配布、部落放送、掲示等を行ない、地域的な問題はプロック、連合体等で水試、大学等と協議の上流している。

ウ 諸観測の実施

潮位測定は8月と9月の2回県下約80の地点で各グループごとに行ない水試へ報告、水試からの取りまとめ結果は号線標識等によつて組合員に周知徹底させた。

また漁期中の定置観測は県下の代表的な場所5~6か所を選び地元研究会が実施した。

エ 各種試験の実施

各研究会は地元において普及性のある課題を選んで自主的に試験して行くが計画の検討と結果の検討は水試より助言を行ないまた既存資料等も十分活用するため呈示した。

オ 研究発表会

(ア) 第4回東三のり研究発表大会

- a とき 4月14日10時30分から17時まで
- b ところ 豊橋市公民館
- c 参集者 約220名
- d 発表件数 5件 内入賞 3題、県大会出場 4件
- e 入賞者 3名

最優秀賞 豊橋市長賞

海況と品種の選定

下佐脇のり研究会 白井武雄

優秀賞 県東三河事務所長賞

室内人工採苗を試みて

牟呂のり研究会 石黒一夫

優良賞 東三のり漁連会長賞

種網導入のうつりかわり

御馬のり研究会 横田定次

(4) 第三回西三のり研究発表会

a と き 4月17日10時30分から17時まで

b ところ 幡豆郡一色町中央公会堂

c 参集者 約80名

d 発表件数10件中4件入賞、県大会出場

人工種別による適地養殖

寺津平坂のり研究会 岩瀬光春

施肥によるのりの増収と品質向上

栄生のり研究会 神谷善次郎

のり漁場の施肥について

衣崎のり研究会 鈴木敏夫

気象と資材の比較

味沢のり研究会 吉田希信

(5) 第2回知多のり研究発表大会

a と き 4月19日10時から17時まで

b ところ 半田市商工会議所

c 参集者 約80名

d 発表件数9件中3件入賞、県大会出場

人工採苗における問題点

新知研究会 稲葉 保

荒海とたたかうのり生産

野間研究会 前田満蔵

人工採苗と私達の漁場における網操作

野間研究会 野田豊郎

(6) 第8回愛知のり研究発表大会

a と き 4月28日10時から17時まで

b ところ 豊橋市公会堂

c 参集者 約600名

d 発表件数は3地区において発表された24件中12件、内入賞は4件で次のとおり

最優秀賞 愛知県知事賞

人工採苗における問題点 新知のり研究会 浜野政夫

優秀賞 豊橋市長賞

人工種別による適地養殖 寺津研究会 岩瀬光春

優良賞 愛知県水産試験場長賞

のり漁場の施肥について 衣崎研究会 鈴木敏夫

努力賞 愛知県漁連会長賞

荒海とたたかうのり生産

野間研究会

優秀団体賞 愛知県知事賞

味沢のり研究会

この内1~3位は5月に行なわれた全国大会において発表している。